

追突事故防止の一声を！

～ゆとり持つ 「心」と車間が 事故防ぐ～

組合の本年度上半期の対人事故のうち、追突事故が50.4%を占めています。

事故の原因として、

信号停止中、ブレーキが緩んでしまった

黄色信号で、まさか前車が止まるとは思わなかった

脇見していた

渋滞で、ぼんやり（考え事を）してしまった

などがあり、もう少し緊張感をもって運転していれば防げる事故が多発しています。

運行管理に当たる皆さんが、ドライバーに緊張感を高め、持続させるための“一声”を積極的に掛けていただき、全員が無事故で帰社できるよう配慮をお願いします。

<追突事故防止の声掛け例>

車間距離は広めに

～走行中は、少なくとも前車と2秒以上の車間距離をとりましょう。

停止中でも、追突された場合の玉突きを避けるため、前車との車間距離は広めにとっておきましょう。

「だろう」運転から「かもしれない」運転を

～前車が「発進するだろう」ではなく、「発進しないかもしれない」と考え、前車の発進を確認し、更に前後、左右の安全を確認して発進しましょう。

ぼんやり運転を防ごう

～一点集中せず、目をよく動かし、安全確認をして脳に刺激を与えましょう。

信号停止中は体を動かし、血流をよくしましょう。

休憩は、早めに確実に

～運転中、眠気や疲労を感じたら、短時間でも休憩をとりましょう。

追突されない運転に配慮を

～後続ドライバーに自己車両の動きをしっかり伝えるため、合図は早めに出し、また、渋滞最後尾ではハザードランプ等で後続車の注意を喚起しましょう。